

ご 挨拶

謹 啓

寒冷の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は、格別のご高配を賜り心より深く感謝いたしております。

さて、当会は今年7月、新制社団法人 美唄歯科医師会として創立50周年を迎えることが出来ました。その唯一の記念事業として『50年のあゆみ』を計画、発刊を進めてまいりましたがこの度完成いたしましたので、謹んでご贈呈申し上げます。

ご高覧願えれば誠に幸いと存じます。

尚、今後とも一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

敬 具

平成10年12月 吉日

社団法人美唄歯科医師会

会長 宝 崎 錠 二

訂正のお願い

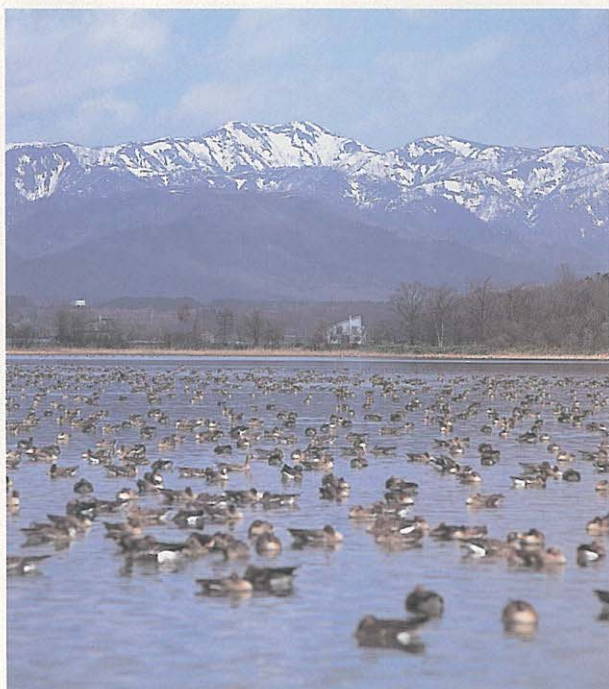
頁	訂正箇所	誤	正
29	上から8行目	橋 本 隆 一	橋 本 隆 市
30	上から6行目	三 菱 鉦 業	三 井 鉦 山
33	上から13行目	今中喜代二	今仲喜代一
42	写 真	鈴 木 良 彦 菊田富夫(富)	鈴 木 美 彦 菊田富夫(留)
47	下から3行目	1月	3月
86	下から14行目	飯 田 博 雄	飯 田 博 雅
91	上から16行目	専 務 局 長	事 務 局 長
32	上から13行目	削 除	

五十年のあゆみ

1998年

社団法人

美唄歯科医師会



美唄宮島沼と渡り鳥



美唄市街全景



発刊の御挨拶

美唄歯科医師会会長 宝 崎 錠 二

北海道歯科医師会・会史によると、大正13年に、空知歯科医師会沼貝分会が設立され、大正15年8月に、北海道歯科医師空知支部会美唄方面会が創設、会長には高橋常保先生が選任されたと記録されております。その後、昭和23年に空知支部より分離独立して、新制社団法人美唄歯科医師会が発足、50年の歳月が流れました。その間、幾多の困難をのり越え、今日の基礎を築いてこられた、初代会長を始めとして、歴代会長の並々ならぬご努力と、数々の輝かしい業績を受け継いで今日に至っておりますことに、改めて敬意を表すると共に、美唄市、北海道歯科医師会、近隣の郡市区歯科医師会を始めとする関係各位に、心から御礼を申し上げる次第であります。

かぞえて50年の間、節目節目に記念式を催し、記念誌を発刊するのが筋道ではありますが、会員数並びに事業内容も少なく、その機会を失って居たと聞き及んでおります。当時を知る人々も年々少なくなり、資料の散逸等もあり、この機会を逃しては永久に悔いを残すことになるのではないか、と言う心配がありました。

本来なら二分の一世紀としての記念すべき年でもあり、事情が許せば盛大に記念式を挙行するところですが、社会の情勢、バブル崩壊後の低経済成長の状況に加え、会員の規模等を考慮し、記念式並びに祝賀会を中止せざるをえませんでした。しかし、50年の歴史がある以上、この足跡を埋没させてはならないと考え、記念事業の一環として、この節目に過去の集積を振り返り、将来への前進の基調となる事を信じ『50年の歩み』として発刊を計画した次第であります。

この発刊に際して、北海道歯科医師会会長、美唄市長、の御祝辞を賜り、厚くお礼を申し上げますと共に、診療ご多忙の中、再三に渡り会合を重ね、少ない資料を持ちよりご協力下された編集委員の方々、又資料を寄せていただいた関係者の方々に深く感謝申し上げます。

この記念誌が単なる記録にとどまらず、先人のご苦勞を通して、将来に向けて今、我々は何をしなければならないのかを常に考える糧として、誰れもが住みなれた地域の中で健やかに、生き生きと自立して暮らすことが出来る社会の実現を目指し、努力して参りたいと思います。

終りに、草創時代の詳細を寄稿して戴いた雨田実先生に、衷心より御礼申し上げ発刊の御挨拶と致します。



祝 辞

社団法人北海道歯科医師会

会 長 甲 斐 雅 喜

「50年の歩み」の発刊を心からお喜び申し上げます。

顧みますと、美唄歯科医師会は戦後の混乱が未だ治らない昭和23年7月、新しい決意と高邁なる信条をもって定款を定め、新生歯科医師会として発足されました。

爾来50年に亘る長い歴史の中、幾多の艱難辛苦を乗り越え、今日の輝かしい発展を見ていることは、まことに慶賀に堪えません。

又、この間、終始一貫して地域歯科医療の確保と公衆衛生の普及向上に貢献された業績は誠に大きなものがあります。

荒廃と混乱の社会情勢の中、設立に向けて奔走された先人のご労苦を偲び、その意志を受け継ぎ今日の確固たる基盤を築かれた諸先輩の並々ならぬご努力に深く敬意を表する次第でございます。

いま、21世紀を目前に我国は少子、高齢化社会を迎え大きな転換期にあります。戦後日本の発展を支えて来た政治、経済、社会のシステムが時代のニーズに適合できず、その改革が大きな課題となっております。

歯科界においても、社会保障制度全体のあり方が問われる中、公的介護保険の創設や医療保険制度の抜本的改革が進められており、取り巻く環境は一段と厳しさを増しております。

「記念誌」には、これ迄の歴史を後世に伝承するに止まらず、そこに残された先人の足跡の中から今後の歯科界の指針を見い出し、困難に立ち向かう知恵と勇気を得ることが出来ると言う事に、より大きな意義があると考えます。

その意味において、美唄歯科医師会50年の歴史を集大成し「記念誌」を発刊されることは、大変価値あるものと思います。

どうか会員の皆様には先人のご労苦を読み取り今後の地域歯科医療活動の励みとされますよう願ってやみません。

終わりに、創立50周年を契機に美唄歯科医師会がなお一層の飛躍と発展を遂げられます様、心から祈念してお祝いの言葉といたします。



美唄歯科医師会50年の歩みに寄せて

美唄市長 井坂 紘一郎

美唄歯科医師会が、ここに創立50周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。

貴会は、昭和23年に新制社団法人美唄歯科医師会として発足以来、永年にわたり美唄市の保健行政の推進にご協力賜り、心から感謝申し上げますとともに、歯科医師会の先生方の熱意と努力によりまして、数多くの研究実績が蓄積され、むし歯予防及びお口の保健衛生の向上を通して、今日の地域福祉の向上に大きく寄与されてきたことは誠に意義深く、深く敬意を表する次第でございます。

近年、人生80年時代と言われる高齢社会の到来に加え、核家族化、生活様式の変化など、私たちを取り巻く社会環境はますます複雑多様化しており、このような現代社会での生活は、さまざまな精神的ストレスが私たちの心身を圧迫することとなり、いかにして健康的で生きがいを感じることでできる生活が続けるかが重要な命題となっております。

地方自治体におきましても、地方分権の推進や規制緩和など、あらゆる分野での改革が求められる中で、地域の問題は地域自らが主体的に取り組んでいくことが強く求められておりますが、本市としましては、誰もが健康で生きがいを喜びあえることでできる福祉のまちづくりに、市民とともに積極的に取り組んでいるところでございます。

健やかな高齢化社会を地域に根ざしたものとして築き上げていくためにも、皆様の豊かな経験と知識を集結した積極的な活動は大変心強く、今後の行政全般の発展のためにも、より一層のご尽力とご指導を賜りますよう念願するものでございます。

この輝かしい50年を契機といたしまして、貴会の今後益々のご発展と、会長さんをはじめ、会員の皆さまのご健勝をご祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

美唄歯科医師会現会員



松谷 (事務局)	桜田 (事務局)	前山	笹川	村上	平	吉村	吉村裕美子
昭子	昭美	善彦	政嗣	孝男	和隆	治範	
孫	平	扇谷	高橋	宝崎	雨田	小森	大坪
泰一	隆一	明典	常美	錠二	実	英世	義和